

本年度の重点目標

自立と幅広い社会参加をめざす学校づくり
 保護者や地域から信頼される安心安全な学校づくり
 教科指導、生徒指導、健康指導、進路指導の充実

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	学校は、視覚障害教育の推進に努めている。			
	学校は、教育方針や教育目標について保護者に説明し、共通理解を図っている。			
2 教育課程・学習指導	幼児児童生徒に応じた教材教具の開発・収集・利用をしている。			
	視覚補助具やICT機器を活用した学習活動を行うとともに、ICT活用指導力の向上にも努めている。			
3 生徒指導	社会的・経済的な自立を保障するためのキャリア教育を推進している。			
	学級担任を中心に、幼児児童生徒の望み、思い、悩みなどを的確に把握し、理解している。			
	事件や事故、問題行動発生の際、迅速かつ組織的に対応している。			
4 進路指導	いじめを見逃さないよう、幼児児童生徒の学校生活の把握および指導を行っている。			
	勤労意欲、職業観の育成等、系統的に進路指導を行っている。			
5 保健・安全指導	関係機関と連携し、情報収集や進路開拓に努めている。			
	幼児児童生徒の事故・怪我・病気などへの対応が適切に行われている。			
6 人権教育	校内や通学路の安全を常に確認している。			
	幼児児童生徒自身が障害を受容し、積極的に生きる力を育てている。			
7 環境教育	自分自身に関わる権利意識とともに、他を思いやる気持ちや正義感・倫理観なども豊かに育つよう努めている。			
	清潔で心地よい学校にするため、清掃を励行している。			
8 交流及び共同学習	体験活動を通して常に自然と触れ合うことができている。			
	授業や行事を通じて、地域の学校等と積極的な交流ができている。			
9 教職員の現職教育	視覚障害教育の専門性を高めるための研修会を、年間を通して積極的に実施している。			
	各教科、分掌組織による研修が計画的に行われている。			
10 センターの機能の発揮	地域の学校と連絡を密にし、的確な支援を行っている。			
	就学前乳幼児から中途視覚障害者まで、個々に応じた教育相談を実施している。			
11 その他学校の取組み	学校生活全体を通して自主性・社会性の育成に努めている。			
	生活の場として、基本的生活技能の習得を支援している。			
	部活動や生徒会行事を通して、近畿の他の盲学校等との交流を深められている。			

(注) ・評価については、A B C Dの4段階で示す。

・生徒指導の欄に、いじめの項目を入れること。また、教職員のICT活用指導力の向上、キャリア教育に関する項目について、任意の領域に含めること。

・自己評価：A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合（達成度80%以上）はA、おおむね達成できた場合（達成度60%以上80%まで）はB、あまり達成できていない場合（達成度40%以上60%まで）はC、達成できていない場合（達成度40%未満）はDとする。ただし、アンケートの結果等を機械的にA B C Dの評価に置き換えるのではなく、学校の現状を真摯に分析・検討し、今後の学校改善につながるよう、適切に評価すること。